

令和5年度 第2回 佐久市少年センター運営協議会 会議録(要約)

日 時 令和6年3月14日(木)
午後1時30分から2時30分
会 場 市役所南棟 3階大会議室

委 員：出席者 11名
欠席者 7名

事務局：9名
傍聴者：0名

進行：生涯学習課長

- 1 開 会 滝澤 良淳 副会長
- 2 あいさつ 依田 誠 社会教育部長
会長あいさつ 木内 和昭 会長

3 会議事項

(1) 令和5年度 事業報告について 資料(p1~8) 事務局説明

【 質疑・意見等 】

委員：青少年健全育成市民集会は「市民総ぐるみ」としているようだが、講師の選定はどのようにしているのか、また、どのような年齢をターゲットとしているのか。

事務局：講師の選定については、様々な年代に参加いただくことを考慮し、事務局でおこなっております。最近の傾向をみますと、子育て世代、青少年の皆様様の参加が少ない傾向であることから、そのような世代にも興味をもってもらえるような講師を検討していきたいと考えています。

委員：ここ数年、参加をしているが、参加者の年齢層が高いように感じる。中学校の意見発表の際には保護者もいますが、発表が終わると帰ってしまう方も多くみられる。子育て世代が興味を持つような講師の方の選定をお願いしたい。

また、補導活動についてですが、現在は、平日の夕方に街頭補導をおこなっているが、カラオケやゲームセンターなど子どもだけで行ってはいけないと申

し合わせがある施設に土日など休みの時に子どもだけでいっているということ
を聞くことがあるのですが、そういった休日に補導活動をするのはどうか。

事務局：現在は、平日の夕方に毎日街頭補導をおこなっていますが、「子どもたち会わ
なくなった」という声は補導委員の皆様からも聞かれるのが現状です。

街頭補導活動は、子どもたちの見守り、犯罪への抑止力、また、地域の皆様
に地域の子どもたちへの関心を持っていただくこととして意味があると思
います。しかしながら、子どもたちに会うことが少なくなっていることも事実
であり、今後の街頭補導活動の在り方について検討していく必要があると医
務局でも考えております。

平日だけではなく、休日の活動についても、補導委員協議会で協議をおこな
っていきたいと思います。

委員： 「補導」というよりは「見守り」という意味での活動だと思うので、そうい
った言葉についても今度考えてほしい。

また、環境浄化活動について、アダルトビデオなど、外で、というよりは、
今はネットが中心ではないかと思うが、それに対する対策はどうか。

事務局： SNS を原因として青少年が犯罪に巻き込まれる、また、犯罪を起こしてしまう
というには、深刻な問題であると補導委員協議会でも議題になっています。

現時点では、啓発をおこなっているところです。

お話にあったアダルトサイトへの対応といたしましては、携帯電話を持つに
あたって保護者の方にご理解をいただき、「フィルタリング」をしていただく
などの啓発活動を今後もおこなっていきたいと思います。

委員： 青少年健全育成市民集会に参加しました。市内の中学生8名が日頃感じている
ことを堂々と発表して中学生がたくましく感じました。学校から離れて、普段
関わることのない年代の皆さんの前で、自分の思っていることを発表する貴重
な体験だったと思う。

また、ジュニアリーダー研修の研修生が「バードコール」を販売していました。
私も購入しましたが、対面で音をならしたりしながら普段関われない大人に触
れたり、話したりして、自分たちが制作したものを自信を持って販売している
姿がとても良かったと思う。

委員： 今年度おこなった新たな取り組みの成果について知りたい。

事務局： 今年度は、ジュニアリーダー研修については、プロジェクトチームを立ち上
げ、検討を重ねて実施しました。特に「イングリッシュキャンプ」は新たな取
組みとして、キャンプの成立と少しでも英語を楽しんでもらおうということ

を目標に実施しました。実施後に研修生及び保護者にアンケートを取った「ところ、研修生の約90%が「英語に自信がついた」若しくは「自身がついた」と海底しており、保護者からは「英語へのハードルが下がったようだ」とのご意見をいただき、事務局としても手ごたえを感じています。今後も続けていきたいと考えています。また、ジュニアリーダー研修の発表会の「結びの会」につきましても、これまでは、修了式という形式でおこなっていたが、自分たちで計画を考え、発表も司会も自分たちで行いました。作文の発表では「こんなことが成長した、できるようになった」との発表があり、自分たちで考え行動するといった私たちの目標に近づけたのではないかと考えています。

この他、新たな取り組みとして、学校教育課の情報教育の指導主事と研修生、保護者も含めた共同学習として、「デジタル社会への参加」について学びました。これも、良い機会であったと思います。

委員： ジュニアリーダー研修も、毎年違う目標をたてて、到達できたかをチャレンジしていけばよいと思う。

資料6ページ、「各地区での青少年育成事業件数」について、この数字がどういった傾向にあるのかの説明がなかった。どういった事業が減っているなどの傾向を聞くことで、危機感を持ってなにをするべきなのか意見交換もできるのではないかと思うので、この数字がどういったものなのか来年度以降は示してほしい。

事務局： そのように準備したい。

委員： 市民集会の中学生の発表の半数の方が人権にかかわる意見発表をしていて、大変心に残ったが、発表をする中学生はどのように選出しているのか。

事務局： 各中学校に選出を依頼している。

委員： 今の補導活動は子どもたちの見守り活動が中心になっている。子どもたちと会うことが少なくなっているなかで、子どもたちがどんな危機に晒されているかというと、やはりスマホを中心としたSNSで被害者になる、または加害者になってしまうということがあるのではないかと思う。最近では、AIを駆使したフェイクとかもあります。地震などでフェイク動画を流すなどもあるが、どうやって判断するのか、判断する力を子どもたちにつけさせる必要があると思う。そのためには、まず親が理解すること、知ること、子どもたちにどう教えていくかだと思う。危険性をどう伝えていくかが重要であると考えます。佐久市には「SAKU

kids メディア safety」といった組織もあるので、そういった知識を広めていくのもいいと思う。

事務局： 子どもも保護者も含めた啓発を今後も行っていく。

委員： 「SAKU kids メディア safety」という組織は、学校教育課が推進しているが、ぜひタイアップしてやっていただきたい。

「SAKU kids メディア safety」は PTA の皆さんを含め、様々な方を交えての組織になっている。学校を対象とした実態調査から、どういったことが大切か、子どもにどういったことを学ばせるかということも、はっきりしているし、スマホなどを持たせるときに親子で約束事をするシートなどもあり、小中学校で取り組むといったこともおこなっていることから、新しく何かを始めるといったことではなくて、こういう組織があるので、それを更に周知して一緒に活動していくということが大切なのではないかと思う。

事務局： 今後、学校教育課と連携して啓発をおこなっていきたいと思います。

(2) その他

【 質疑・意見等 】

委員:各地区の青少年育成活動件数に PTA 活動や地区児童会活動が含まれているが、そういったものも該当になるのか。

事務局： 地区育成会との共同の事業は対象となります。

4 閉 会 滝澤 良淳 副会長